

卒業五X周年同窓会報告

一年遅れの退職時期同窓会

学生の頃の記憶がよみがえる

埼玉大学教育学部昭和五十八年三月卒業生 福島 正美

令和四年十月三十日、穏やかな秋晴れの中、ホテルブリランテ武蔵野において、埼玉大学教育学部昭和五十八年三月卒業生の退職時期同窓会が開かれました。本来、昨年開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の拡大により、一年延期となり、大学卒業後三十九年ぶり、「卒業十五周年記念同窓会」から二十四年ぶりの再会となりました。

午前十一時五十分、開宴に先立って記念撮影。司会は、幹事の関克則さんが務め、はじめに、鬼籍に入られた仲間を偲んで黙祷。その後、幹事を代表して、石田耕一さんより、この同窓会開催の趣旨についての説明に加え、コロナ禍の中、開催に漕ぎ着けるまでの経過といった、今回の退職時期同窓会の開催への思いも込めた挨拶がありました。

続いて、ご来賓のお二方からご祝辞を頂きました。「教友会」会長、松澤勇治様からは、コロナ禍

により、今年度の同窓会の開催はこの学年のみであることや、六十代（の生き方）を充実させることの大切さなどについてお話を頂きました。また、資料（会報『教友』第九十号「埼玉大学開学七十周年特集」）をご準備頂き、それをもとに、埼玉大学教育学部のこれまでについてお話を頂きました。さらに、「埼玉大学ホームカミングデー」について（本年度は大学祭「むつめ祭」と同時期に開催）ご紹介してお話を頂きました。

埼玉大学教育学部長の堀田香織様のご祝辞では、埼玉大学教育学部の現状や新たな取組の紹介、現在の教員採用の状況、学生の様子や意識などについてお話を頂きました。

幹事の山田晋治さんの乾杯の発声の後、歓談。歓談はマスクをして感染防止を心がけながらではありましたが、互いに旧姓（名札には旧姓も記しました）で呼び合い、話をする中で、下大久保のキャン

パスで共に学んだ頃の記憶がよみがえり、思い出話に花が咲きました。さらに、卒業後から現在までのこと、定年を迎えてからの暮らしぶりなどについてと、話題は尽きませんでした。互いに旧交を温め合い、楽しいひとときとなりました。

最後に幹事の私が締めを行い、閉会。閉会后、今回の開催及び開催年について、今回の参会者に諮り、次の開催は令和十年（卒業四十五周年）に決まりました。参会者どうし、六年後の再会を約束し、各々会場を後にしました。

今回は、この

ような状況の下での開催であったため、五十名（会場の定員の半分）を目標としました。また、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の状況によつては開催も危ぶまれたため、幹事は学年理事



四名が務めました。そのため、当日の受付を、勝野（旧姓・桜井）晴美さん、北原（高梨）その美さん、櫻井（杉田）和代さんにお手伝い頂きました。当日の参会者は、ご来賓二名を含め四十八名と、ほぼ目標通りの参加者数で無事開催でき、そして、皆さんのおかげで和やかで楽しい会となり、幹事一同安堵いたしました。

素晴らしい再会の機会を設けてくださった「教友会」の皆様には、心より感謝申し上げます。

定年を迎えたとはいえ、多くの者が引き続き職に就いており、今回欠席した者の中にも仕事の都合で欠席という者、また、今回は新型コロナウイルス感染症への感染を心配して欠席という者もおりました。次回は、さらに時間にとりもでき、そして新型コロナウイルス感染症の心配もなくなり、より多くの皆さんにご出席頂けることを願いつつ、今回の同窓会の報告とさせていただきます。